



ビッグデータ・IoT・AIそしてイノベーション (2月のごあいさつ)

平成 29 年 2 月 1 日 (水)

2 月 4 日は立春、沖縄では花の季節を迎えます。

IoT・ビッグデータで加速する**デジタル革命**。IoT やビッグデータ、いわゆるモノインターネットによって、あらゆるモノがインターネットにつながり**破壊的イノベーション**により世界が変わろうとしている。あらゆるモノに**センサー**が搭載され、膨大なデジタルデータを分析、活用すれば、可視化したデータによる生産性の大幅な向上や新しい価値・サービスの創出が可能となると言われている。

ウェブが発展して、人の声や行動がデジタルデータとして蓄積される。生産データ、購買データ、移動記録、位置情報などあらゆるデータがネットワークに記録できる状態、いわゆる**ウェブ・ビッグデータ**を貯め、これを解析して行くと有用な傾向を見つける可能性がある。**人工知能の技術**によって、いろいろなものの予測精度を高めて行くということはイノベーションの基本である。

しかし、これらのデータは、いかに膨大であろうとも、結局は**過去情報**である。会計士である私にとって過去のデータは、監査上も、会計上も最重要事項であり、理解できる。確かにイノベーションのある面は、現状の中から、エスキモーの冷蔵庫利用などの新しい事への応用、適用という面も大いにある。**すでに起きた未来の発見**など、経済的効率性や金儲けという点からは大きな効果を得られるが、**人や社会の進歩**と言った点からは物足りない気がする。

最初に**イノベーション**を提唱したシュムペーターは、イノベーションこそが**社会・経済発展の鍵であり原動力**であるとしている。日本語では「革新」、中国語では「創新」と訳されている。このような深い意味から見ると、数字的、物質的レベルとも感じられる現在のIoTによるイノベーションは何か貧弱な感じがする。やはりイノベーションの中心は、人間の知恵、感性が主であって、AI もその一部であるが、それが強調されると、過去、物的、機械的な印象が強い。要は人間的なAIの活用が不足していると思う。AIが経済的効果に片寄りすぎずに、人や社会の未来ということに動けば、人類の未来にとって大きな意義があるのではないだろうか。